

### 大口径検出器による汚染の迅速検査

石井慶造<sup>1)</sup>、菊池洋平<sup>1)</sup>、櫻田喬雄<sup>1)</sup>、結城秀行<sup>2)</sup>、松山成男<sup>1)</sup>、寺川貴樹<sup>1)</sup>、山崎浩道<sup>2)</sup>

東北大学大学院工学研究科<sup>1)</sup>、東北大学サイクロトロン・R I センター<sup>2)</sup>

#### 1. 目的

リサーチレポートNo.18で提案した大口径検出器による汚染の迅速検査を実践すること。

#### 2. 方法

リサーチレポート No. 18 で示した検出器システムを厚さ 5 c m の鉛のブロックで遮蔽されたシステムを構築して食品の丸ごと迅速汚染検査を行う。

#### 3. 結果（平成 2 4 年 2 月 8 日発表）

図 1 に福島市モニタリングセンターに設置された大口径検出器による汚染迅速検査システムを示す。測定時間 5 分間で検出限界値は 1 0 ベクレル/k g である。同システムは、平成 2 3 年 1 1 月に福島市モニタリングセンターに設置されたがその後、福島市中央卸売り市場に設置され汚染検査を行った。

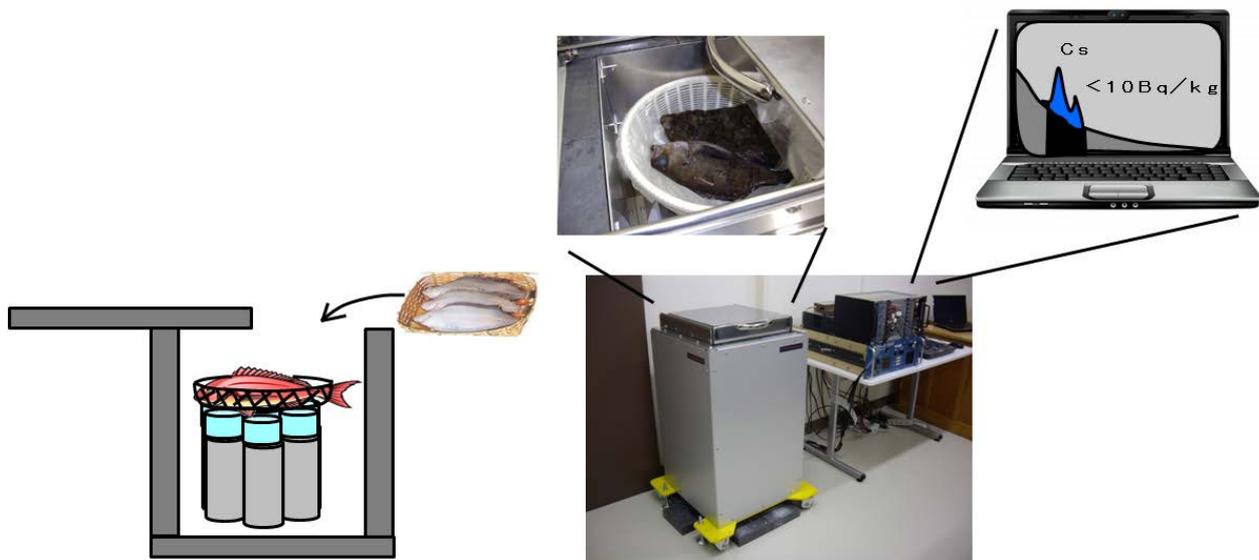


図 1 福島市モニタリングセンターに設置された大口径検出器による汚染迅速検査システム

作成者：石井慶造